

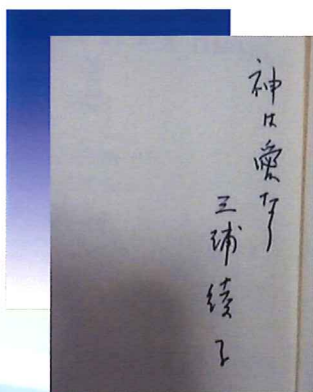


特別伝道礼拝



日時 2019年10月6日(日) 午前10時15分～
 講師 斎藤 義信 先生 (札幌白石教会牧師)
 説教題 「神の愛の実践」 聖書:ローマの信徒への手紙5章6～11節

礼拝後 三浦綾子原作「塩狩峠」映画観賞会



■三浦綾子

(1922-1999)旭川生れ。17歳で小学校教員となったが、敗戦後に退職。間もなく肺結核と脊椎カリエスを併発して13年間の闘病生活。病床でキリスト教に目覚め、1952(昭和27)年受洗。1964年、朝日新聞の千万円懸賞小説に『氷点』が入選、以後、旭川を拠点に作家活動。主な作品に『塩狩峠』『道ありき』『天北原野』『銃口』など。1998(平成10)年、旭川に三浦綾子記念文学館が開館。

■塩狩峠

映画「塩狩峠」あらすじ

名寄発札幌行きの蒸気機関車が二両の客車をひいて塩狩峠をあえぎながら登っていく。国鉄職員の信夫にとって、今日は特別な日だった。札幌で幼馴染のふじ子との結婚式の当日なのだ。



信夫は小学校で同級の吉川と気が合った。吉川には生まれながら足の不自由なふじ子という妹があった。やがて吉川一家は北海道へ渡って行った。信夫は吉川の誘いに応じて札幌の北海道炭鉱鉄道に就職した。信夫は吉川にふじ子を妻に欲しい、と正式に申込んだ。そして吉川から、ふじ子はキリスト教徒だと知らされた。そこで初めて信夫は、ふじ子のかげりのない静かな微笑みの原因が分かったような気がした。信夫は聖書を熱心に読み始めた。

信夫の長い追憶がつき破られた「汽車が離れた！」塩狩峠をあえぎ、あえぎ登っていた最後の客車の連結器が離れて逆走しはじめたのだ。直線の先の急カーブは曲がり切れない。信夫の臉に花嫁姿のふじ子が映る。合掌したまま信夫はデッキから身を翻た…車内にガクンと強い衝撃、車輪は止まっていた……………。

■会場：札幌市白石区平和通
4丁目南2番7号

■電話 011-864-3515
JR白石駅より徒歩7分



どなたでも
ご自由にご参加下さい。
お子様連れの方も
ご一緒に聞けるよう
準備をしています。

